

●6年制学科のカリキュラムの特色

学生が本学部のディプロマ・ポリシーに到達するために、カリキュラム・ポリシーならびに薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成25年改訂版)に基づいたカリキュラムを体系的に編成している。例えば、薬学教育の基礎となる物理・化学・生物系薬学と並行して、1年後期から2年後期にかけて「解剖生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を、2年後期から3年後期にかけて「疾病と病態生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を、3年前期から4年前期にかけて「薬理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を追い重ねるように配置し、最終的には「薬物治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「臨床薬学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」へ連動して学べるようにしている。講義は単なる暗記の強要でなく、科学的根拠や理論の理解を重要視して実施している。また、医療人に欠かすことのできない問題解決能力や自己表現能力を育成するために、講義・実習の一部において、small group discussion (SGD)、problem-based learning (PBL)、team-based learning (TBL)、ロールプレイ等の、能動的に学ぶ自己研鑽型の学習方式を導入している。全てが5年次に行われる病院・薬局実務実習(22週間)に収束されるカリキュラムである。最終学年となる6年次では、薬学教育の集大成として、卒業研究(5年次からの2年間通年科目)及び「総合薬学演習Ⅰ・Ⅱ」を配置している。

●病院や薬局の実務実習 特色や取り組み

本学附属病院や関連病院、契約病院にて、緊密な連携を図っている。

●病院実習先・薬局実習先

主な病院・診療所名 本学関連病院・契約病院 22カ所

主な保険薬局 調整機構により実習先を確保 107カ所

●アドバンスト(臨床)実習

医療福祉の総合大学である本学の学部・学科の枠を超えた横断的なチーム編成による問題解決型学習である「関連職種連携教育」に参画し、チーム医療における薬剤師の役割を学ぶとともに、将来医療現場において職種間で円滑に協働できる素地を養う教育を実施している。1年次の「早期体験実習」では、病院、保険調剤薬局ならびに福祉施設などを見学し、薬剤師として求められる使命感や責任感を学修するようにしている。また、2年次の「関連職種連携論」では、職種間連携の基本概念、各職種の専門性と関連性、チーム医療・チームケアの実践方法等について教育し、3年次の「関連職種連携ワーク」では、患者モデルを想定したグループ

ワークにより職種間連携の基礎技能の養成に努めている。さらに、5年次の「関連職種連携実習」では、選択科目の特性上一部の学生に限られるが、臨床実習としてチーム医療・チームケアの技法を実践的に学ぶ機会となっている。加えて、5年次の「病院・薬局実務実習Ⅰ・Ⅱ(病院および保険薬局における長期実務実習)」も、チームケア実践教育の一役を担っている。

●多職種連携教育の具体的な内容

それぞれ異なる専門職を目指す各学科学生が同一の実習現場において、対象者・家族中心のサービス提供の体験を通して、チーム医療・チームケアを学ぶ。対象者・家族の方々および実習施設指導者等の協力のもと、実習が展開される。

具体的には全学科の学生がチームを形成し、1名の対象者・家族についてアセスメントおよびサービス計画立案を行い、ケースカンファレンスにおいてその内容を討議する。併せて、各職種の職務見学および実習指導者のもとの実践を行う。医療福祉の総合大学である本学の教育環境を生かした実習であり、協働して実習を行うことで、職場で実際に役立つ幅広い知識・技術等が修得できる。

●多職種連携教育を行う医療施設名

本学関連病院、関連施設及び契約病院、大田原市役所、計14カ所

●薬剤師国家試験への取り組み

薬学共用試験(CBT・OSCE)に向けた復習授業を、4年次の4月から開始している。この復習授業は、薬学共用試験の合格のみならず、2年後の薬剤師国家試験も視野に入れて行っている。また、5年次の病院・薬局実務実習がない時期には、学力維持のために、薬学教育全領域の演習課題に取り組んでいる。6年次の薬剤師国家試験に向けた総復習に関しては、前期(4月~7月)は毎週1コマ(90分)実施しており、後期(9月~12月)は模擬試験を含めて、ほぼ毎日実施している。尚、薬剤師国家試験直前には、別途、約1ヶ月間の直前講習を設けている。

●卒業研究について

6年制 4年次後期(10月頃)に所属分野を決定している。また、卒業研究の形態は実験研究、調査研究あるいは文献調査研究のいずれかとし、テーマは担当教員と学生との話し合いにより設定するようにしている。卒業研究期間は、原則、5年次4月から6年次11月までとしており、この間分野ごとに、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につけるための研究

活動を行っている。6年次9月上旬には卒業研究発表会を実施し、学生全員が研究内容の発表と討論を行っている。さらに、卒業論文も学生全員が執筆要領に基づいて作成し、11月に提出している。

●4年制学科の教育目標とカリキュラムの特色

該当なし

●入試の変更点

特待奨学生特別選抜:新たに郡山試験場を追加

一般選抜前期・大学入学共通テスト利用選抜:これまでの特待奨学生B選抜に加え、特待奨学生S・Aを選抜

●入試に合格するためのアドバイス

本学には、専願制入試(総合型、学校推薦型)、併願制入試(特待奨学生特別選抜、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜)など多様な入試制度がありますので、各入試の特徴を知り、自分に合った入試を選択してください。受験する入試によって対策は異なりますが、多くの入試で英語と化学を必須科目としています。

まずは赤本の「傾向と対策」を熟読し出題傾向を把握してください。赤本に掲載されている過去問題を有効に活用し、解けなかった分野を復習するなど、苦手分野をなくしていくとよいでしょう。

●過去問を公開しておられますか

WEB上に過去問題の公開はしておりません。傾向と対策については2024年度の入試ガイドP14、15参照

https://admissions.iuhw.ac.jp/exam/pdf/nyushi_guide.pdf

●面接について教えてください

志望動機や、将来の目標など、一般的な質疑応答が中心です。医療福祉分野の専門的な知識を問うことが目的ではありませんが、薬剤師について理解を深めましょう。重視するのは、「目標が明確で、目標に向かって粘り強く努力する意思や意欲があるか」、「医療福祉専門職として必要不可欠な

コミュニケーション能力を備えているか、あるいはこれから養うことができるか」といった点です。

●過去の小論文の形式とテーマ・文字数

2024年度の入試ガイドP16に過去2年分の小論文試験過去出題テーマの記載があります。

https://admissions.iuhw.ac.jp/exam/pdf/nyushi_guide.pdf

●大学独自の奨学金制度

2024年度の入試ガイドP56に本学独自の奨学金についての記載があります。

https://admissions.iuhw.ac.jp/exam/pdf/nyushi_guide.pdf

●地域のアパート・マンションのモデル家賃

市内アパートは3万円台(平均36,000円/月)の物件が多く、6~10畳のワンルームで、トイレとバスは分かれており、ほとんどの物件で駐車スペースが1台分ついております。

●オープンキャンパスの日程

○オープンキャンパス

2023年

6月11日 7月30日 8月11日 8月19日

大学&キャンパス紹介、お仕事book解説(医療福祉入門講座)、

入試ガイダンス、専願制入試策講座、学科別模擬授業、学科体験入学、

クラブ・サークル紹介、無料学食体験、個別相談コーナー、赤本販売、

シールラリー、無料バスツアー など

※要事前申し込み